

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)／香西
武

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

① 授業内容

今後40年間の教育を担える教育者を育成するため、しっかりとした専門的知識に基づく教科教育が実践できるよう、小中学校を中心とした教育内容とリンクさせながら授業を構成する。

② 授業方法

より実践的な授業を行うため、模擬授業、プレゼン発表など、学生自ら積極的に授業に関わるような工夫を行う。

③ 成績評価

出席、授業への取り組み、習熟内容等、厳密に評価する。

2. 点検・評価

①地学に関する授業内容に関しては、小中学校を中心とした学校教育現場での指導内容と関連させ、深化させた内容について講義を行った。

②教科教育に関する授業では、模擬授業、授業検討会、全体講義、グループ作業等、様々な方法で授業を行った。また、教科内容に関する授業では、野外での観察・議論等も取り入れ、学生が主体的に学習できる場を作った。

③教員としての質保証として、成績評価は厳密におこなった。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

担当学生や指導を希望する学生に対して小論指導、面接指導などを行い、学生の就職活動を支援する。

2. 点検・評価

学生に対して小論指導、模擬授業、集団討論、個人面接等の教員採用試験対策を週1回実施した。指導学生の70%が採用試験に合格した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

専門的研究に偏らず、教育実践に関わる研究、国際貢献に関わる研究も行っていく。

2. 点検・評価

教科内容に関する研究として3編、教科教育に関する研究として4編、国際協力に関する研究として2編論文の合計9編を投稿した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

教員教育国際協力センター所長として、JICA受け入れ研修、留学生へのアドバイス等積極的に行う。また学校現場との連携をはかり、本学が教育現場と緊密な連携を図っていることを伝えられる活動を行う。

2. 点検・評価

教員教育国際協力センター所長として、5件のJICA受託研修を実施し、1853万円の外部資金を獲得し、間接経費として約560万円を大学に納入した。また、ユネスコスクールフォーラム、国際教育フォーラムなどを開催し、年度末には、評価会議を実施した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

国内貢献：教育支援アドバイザーとしての活動や各種研究会での助言などを通して、研究成果の社会貢献をはかる。
国外貢献：JICAの研修に積極的に参加し、研究成果に基づく研修を実施する。また、可能な限り現地での指導を通して、国際貢献をはかる。

2. 点検・評価

教育支援アドバイザーとして4回、そのほかにも現場教員と連携した取り組みをすすめた。また附属学校とは、研究発表会に向けた連携を日常的に行っている。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

教員教育国際協力センター所長として、JICAをはじめ、外部団体と連携強化を行った。センターについてはこれまでの成果が認められ、JICA理事長表彰を受けた。